

変わる街 眼下に

一字一筆

静岡の今

秋を探して、沼津市内の香貫山に登った。JR沼津駅から南東約1キロにある市街地に隣接した小山（標高193メートル）で、千本松原や大瀬崎などとともに沼津市のシンボルとして市民に親しまれている。そこから

南に連なる通称「沼津アルプス」と呼ばれる急峻な山地は、世界ジオパークに認定された伊豆半島が本州に衝突する前の海底火山の名残としても知られる。山頂付近の展望台に立つと、駿河湾と沼津市街地が広がり、振り向けば富士山や南アルプスの眺望も楽しめる。

眼下の沼津市では今、県

と市が進めるJR沼津駅鉄道高架事業をめぐる動きが あわただしくなった。駅南北の交通円滑化や市街地活性化などを目的に東海道線3・7キロと御殿場線1・6キロを高架にする事業だが、用地確保などが難航し、事業は進まなかった。今年4月の市長選で「事業推進派」の市長が当選、10月30日から新貨物駅移転用地の確保に向けて土地収用法に基づき立ち入り調査が始まった。事業認可から12年、膠着していた事業はようやく動き出した。人口減少や中心街の過疎化に悩む沼津市にとって、事業完成を望む市民も多い。

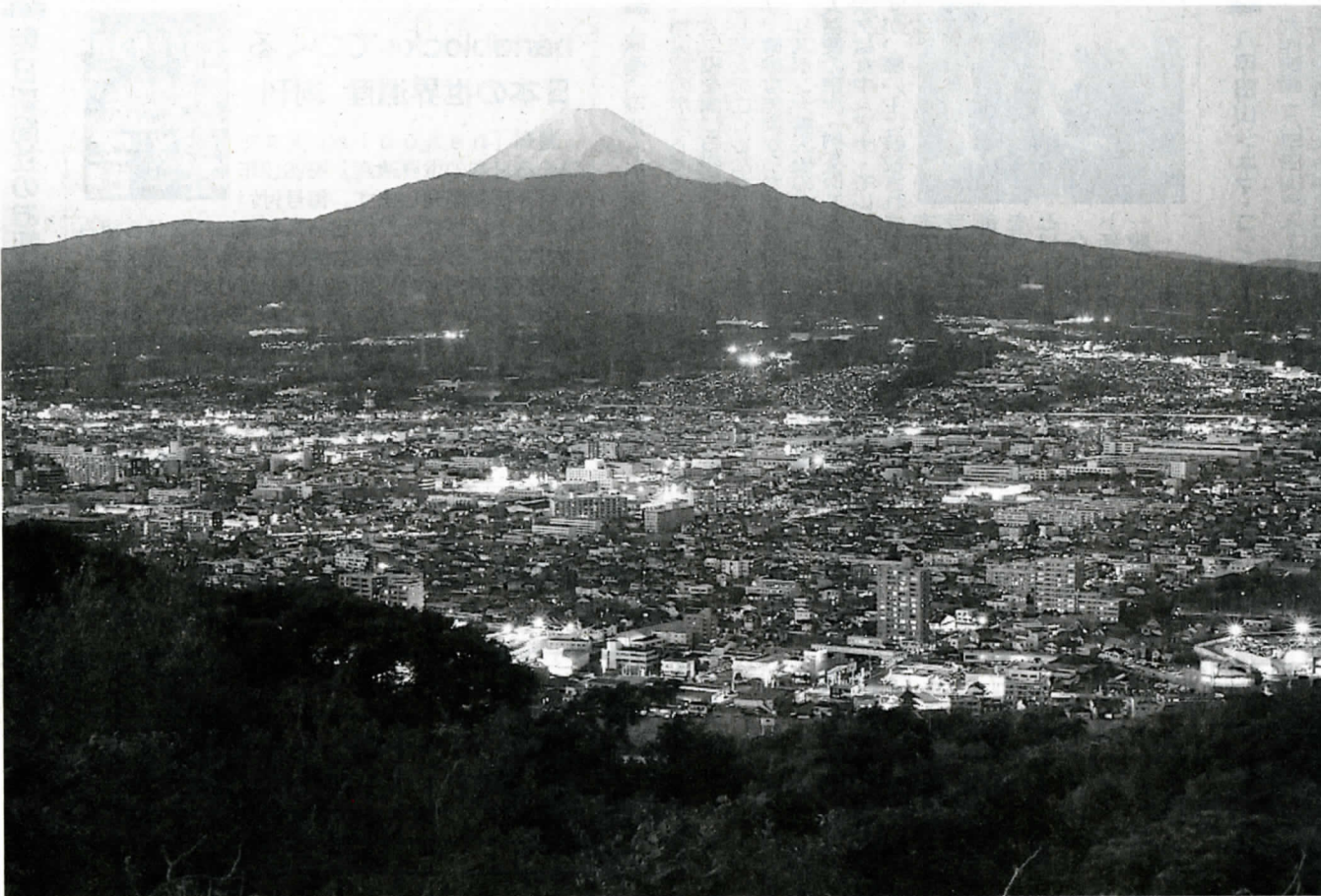
香貫山中腹の香陵合に、若山牧水の歌碑がある。

香貫山 いたゞきに来て
吾子とあそび ひさしくを
れば富士はれにけり

1920（大正9）年、千本松原に魅せられて一家でこの地に移り住んだ牧水が「海を見たい」と香貫山に登ってこの歌を詠んだという。私が登ったのは、「晴れの特異日」と言われる11月3日（文化の日）。辛うじて雨こそ降らなかったが、富士山を見ることはできなかった。

千本松原に沿って西方に「貨物駅移転予定地」がある。鉄道高架でリニューアルされようとしている沼津市街地を見下ろして、牧水はどんな歌を詠むのだろうか。歌碑の周りにツワブキの黄色い花が咲き乱れていた。

（前静岡県監査委員・富永久雄）



香貫山からの夕景色＝沼津市、全日写連・高根美奈夫さん撮影